

様式

技術名称	FTJ工法 FTJ-FAN工法	技術の分類	高圧噴射攪拌工	NETIS登録の有無 (有場合はNETIS番号)	FTJ工法:QS-040034-VE FTJ-FAN工法:HR-140015-A
会社名等	株式会社 不動テトラ	担当者	鶴野 雅明	連絡先	052-385-0803 masaaki.uno@fudotetra.co.jp
技術の概要	FTJ工法⇒高圧噴射工法の一つであり、セメントスラリーを1流線で噴射していた従来技術に対して、2流線で噴射することにより大径の改良体の造成を可能とし、さらに造成速度の短縮を図った工法。 FTJ-FAN工法⇒揺動制御装置により噴射方向の制御を可能としており、扇形あるいは矩形(長方形)断面の改良体を造成できる工法。	添付資料	パンフの有無	有	
			その他の資料	技術資料(N/NA、S/SA、L)	
技術の特徴	<p>【FTJ工法】・2流線のスラリー噴射技術により、従来技術の2倍のスラリーを地中に噴射できるため、改良径の大型化、高速施工が可能であり、コスト縮減、工期短縮が期待できる。</p> <p>・クローラ型の超小型～大型の施工機や、ボーリングマシン、台船搭載式まで多種多様な施工機のバリエーションを有するため、様々な施工条件に対応可能である。</p> <p>・エアーの使用・不使用を選択可能であり、改良目的に応じた適切な改良仕様を選択できる。エアーを用いない場合は水中施工などに適する。エアー併用タイプでは変位影響を抑制できるため、近接施工などの適用可能である。</p> <p>【FTJ-FAN工法】・攪拌翼の正面に水平に取り付けた複数の噴射ノズルから高圧かつ大流量の固化材スラリーを揺動噴射させることにより、従来技術に対して切削距離(改良半径)が大きい(粘性土:3.0m程度、砂質土3.5m(最大4m)程度)。この特長を活かして、構造物の脇から構造物直下の改良が可能。</p> <p>・揺動技術の開発により、扇形や矩形の改良体の造成が可能。余分な部分の改良を行う必要がなく、効率的な配置によりコスト縮減が期待できる。</p>		その他	<p>・高圧噴射攪拌による改良原理のため、排泥を有する。処分が必要な場合は、産廃となる。</p> <p>・特許は有するが特許使用料は徴収していない</p> <p>FTJ工法⇒特許番号:4632295,4897059 その他出願中1件</p> <p>FTJ-FAN工法⇒特許番号 4632295、4897059、他出願中3件</p>	